

課題

【小・国語】同音異義語を正しく理解して書くことが苦手

手立て

同じ読み方をする漢字を注意して使う場面を作る

具体例

POINT① 文脈の中で意味と結び付けていく

習得した漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定し、漢字の字形に注意しながら繰り返し書くことにとどまらず、文や文章の中で適切に使えるような指導の工夫が必要である。

○書いた文章を互いに読み合い、漢字のもつ意味を考えながら正しく使用しているかどうかを評価し合う。

○同音異義語の漢字や複数の読み方をもつ読み替え漢字に注意しながら文を作り、それぞれの漢字の意味を確認する。

POINT② 漢字辞典を使って漢字の読みや意味などを自分で調べる

第3学年及び第4学年において、国語辞典や漢字辞典などの使い方の確実な理解を図るとともに、その利用について意図的・計画的に指導することが必要である。

※1人1台タブレットを活用し、インターネット検索で行うことも可能であるが、正しい情報を見極める力を身に付けた上で行う必要がある。

○必要なときにはいつでも辞書が手元にあり、すぐに使えるような言語環境をつくる。

○国語科に限らず、各教科等の調べ学習の中でも積極的に辞書を活用する機会を設ける。

POINT③ 同音異義語に注意し、漢字のもつ意味を考えて使う

言葉カードづくりやクイズづくりなどを通して、多くの漢字に興味をもてるような学習活動を工夫する。

○同音異義語カードづくり

【たいしょう】「対象」「対照」「対称」

「大賞」「大将」「大正」

○それぞれの意味 ・ 熟語を使った短文づくり

○クイズづくり

作ったカードを使ったゲームやクイズづくりは、正しく作成しなければならないので、自然に調べようとする意欲が高まります。

